

4 療育コラム 「普通、とは？」

今回は【普通】について、考えていきたいと思います。

早速ですが【普通】とはどういう状態を指すのでしょうか。

我々は会話の中で「普通、○○だね。」「普通に考えてみたら分かるよね。」など、この普通を使う事がしばしばありますが、明確に【普通】を言葉で示すとなると、割と難しいような気がします。

私は学生時代お世話になった心理学の師匠から「概念について述べる際は、まず、その言葉の意味を調べなさい。」と教わったので、それに倣って言葉の意味を調べてみました。

その結果が以下の通りです。

普通

【名、形動】→他の同種のものとかくべて特に変わった点がないこと。特別でなく、ありふれていること。

【副】→たいてい。一般に。通常。

なんと【普通】は名詞、形容動詞、そして副詞としても用いる事ができるようです。

やりますね、普通！

さて、話を戻しまして、今回は先述の意味の中から、副詞的な意味合いで用いた際の【普通】に注目していきたいと思っています。

広辞苑によると【普通】は、【一般的】とも置き換えられるようですが、問題は、この【一般的】という視点にあるように思います。

【一般的】とは、言うまでもない暗黙の了解で、多くの人に普遍的に広まっている、と状態を指します。

しかし、あくまで多くの人に、であって全ての人に、では無いのです。

そして、大多数がそうであると思われるが故に、冒頭の会話の例のような表現が使われるのです。

こうした表現が、実際は、一般的にはこうだろうを、ということを知りつつも、意図して見て見ないフリをしようとしている人に対して用いられるならまだしも、何の悪気も無く、ただただ純粋に自分の意見を述べた人に対して使われていた場合、それは、その人にとっては、本当に普通では無いわけです。

逆を言えば、その人にとっての普通、は大多数の人々からすると普通では無いという矛盾が生じる事となります。

そして、日本の教育は、とにかく普通を重視する傾向があり、そこから逸脱すると、こと対人関係面で苦勞をする事は想像に容易いです。

しかしながら、社会人になると個々人の独自性が重要視されるという更なる矛盾に直面させられます。

これに関してはまたいずれ何かの機会にお話できればとは思いますが、今回は割愛させていただきます。

色々お話をしてきましたが、要約すると、普通の基準は個々人によって種々多様であり、絶対的な基準ではない、という事をお伝えしたかった次第です。

そのような視点を持つ事で、他者とのやり取りの中で、普通の価値観に差異が生じていた場合、相手の視点で物事を考えてみる事で、自分自身が考える普通、の価値観が広がったり、相手の事をより深く理解するきっかけとなるやもしれません...

いかがでしたでしょうか。今回は【普通】についてのお話でした。

とっても端的にまとめると、価値観は人それぞれなので、自分の普通が相手にとっても普通であるとは限らない。だから、時には相手の普通にも目を向けてみると良いかもしれません。

というお話です。

それでは、また次回のコラムでお会いしましょう。